

自動車部品

自動車

環境技術武器に再攻勢

日本のモノづくりの頂点に立つ自動車産業。2011年は、3月の東日本大震災と10月のタイ大洪水という二つの大きな災害に見舞われた。現在まで続く「超円高」もあり、自動車業界にとっては逆風の状況が続く。これに対し各社は、ハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)、そして低燃費ガソリンエンジン車など環境負荷の低い次世代技術の武器に国内需要の「エコ入れ」と海外市場の攻略に挑む。日本の自動車産業にとって、12年は再攻勢の年になる。

国内、エコカーでエコ入れ



トヨタの「アーク」は自動車産業と東北の復興を担う

世界経済の先行きに不透明感が増した11年。しかし世界の自動車販売台数の実績は前年比2・5%増の1850万5100台、米国も同10・3%増の1277万7939台になった。またブラジルは同3・4%増の363万3006台、インドは同8・4%増の329万4257台などとなり、世界全体の販売台数は過去最高となった模様だ。

一方、日本の11年新車販売は前年比15・1%減の421万2200台。大震災とタイ洪水による供給減もあり、平成に入ってから以降では台数、増減率とも最低になった。だが12年は反転し、日本自動車工業会は同19・1%増の501万5500台になると予測する。エコカー

トヨタの「アーク」は自動車産業と東北の復興を担う

ヨタと三菱自動車が新車を発表。マツダはクリーンディーゼルエンジン搭載車でクルマを運転する喜びを改めて訴求した。これらの新型車がクルマの魅力の復権にどうつながるか。中でもトヨタは、HVの決定版ともいえる安価なアークを東北地方の子会社で組み立てる。次世代の主力を担うクルマを、東北復興、日本の自動車産業の復興の象徴として育てていく方針だ。

開発・調達も現地シフト

ニーズに素早く対応



新興国市場の深掘りが成長の鍵に(中国・広東省広州市の日産の合弁工場)

各社にとっても一つの大きな課題が、新興国

を中心とした海外市場への展開。世界最大の自動車市場となった中国への取り組み強化とともに、目下の課題は超円高環境に対応した現地での開発・調達機能の強化だ。東南アジア諸国連盟(ASEAN)やインドといった、中国に次ぐアジアの新興国市場をどう攻めるかも重要になっている。中国ではトヨタが江蘇省に大規模な研究開発拠点を開設。HVの現地開発に乗り出した。日産とホンダは、ともに近くEVを現地生産し販売する方針を示している。開発・調達・生産の現地化により、ニーズに即した新車を素早く出す。またASEANの核となるタイは、アジアの新興国を攻略する上での開発・生産のハブ拠点として育った。日産の「マーチ」や三菱自衛隊の「ミラージュ」のように、グローバルな旗艦車種を生産する例が増えている。洪水で被害を受けた日系自動車各社。しかしタイからの撤退や縮小を打ち出した会社は1社もなく、重要拠点としての位置づけは揺るがずにいる。

地産地消 基本に海外進出

自動車部品メーカーは、新興国を中心に現地生産の動きを鮮明にする。完成車メーカーの生産増強に伴い、各社は「地産地消」を基本に進出。供給網が寸断した東

東日本大震災の影響で調達難となった自動車部品。しかし被災工場での海外シフトも加速している。現地ニーズにあった部品供給の必要性に伴い、開発の現地化も推進。日系や現地資本の車メーカーなど新規顧客を獲得し、成長市場の中国・アジアで収益を上げる体制づくりを急ぐ。

東日本大震災の影響で調達難となった自動車部品。しかし被災工場での海外シフトも加速している。現地ニーズにあった部品供給の必要性に伴い、開発の現地化も推進。日系や現地資本の車メーカーなど新規顧客を獲得し、成長市場の中国・アジアで収益を上げる体制づくりを急ぐ。

軸足日本に競争力磨く



成長性の高い新興市場への進出。しかし生産の現地化だけではいずれ限界を迎える。「現地の価格や性能に合った製品の開発なしに市場の開拓は難しい」(曙ブレーキの信元社長)というように、車部品各社は開発の領域でも現地化の対応を迫られている。

曙ブレーキは11年1月に中国の蘇州工場にプレキ部品品の開発機能を持たせたほか、デンソーも今春をめぐりインドにパワートレインや電気電子システムなどのテクニ

新興国での生産が順調に拡大(ヨロズの中国・広州市の生産拠点)という。



この社会と、優しい明日のために

住友電工は、自動車、情報通信、エレクトロニクス、電線・機材・エネルギー、産業素材の5つの分野において、安全・安心・快適な暮らしを支え、環境に優しいモノづくりを実践しています。これからも、技術力のさらなる向上に努め、社会の変革に応じていきます。

皆さまと一緒に優しい明日を創造するために。いつの時代も愛され続けるために。

Ingenious Dynamics

「住友電工グループ」は、卓越した知見と独創性を持ち、そのダイナミクスによって最大効果を創出し、社会の期待に応えています。

住友電工

www.sei.co.jp